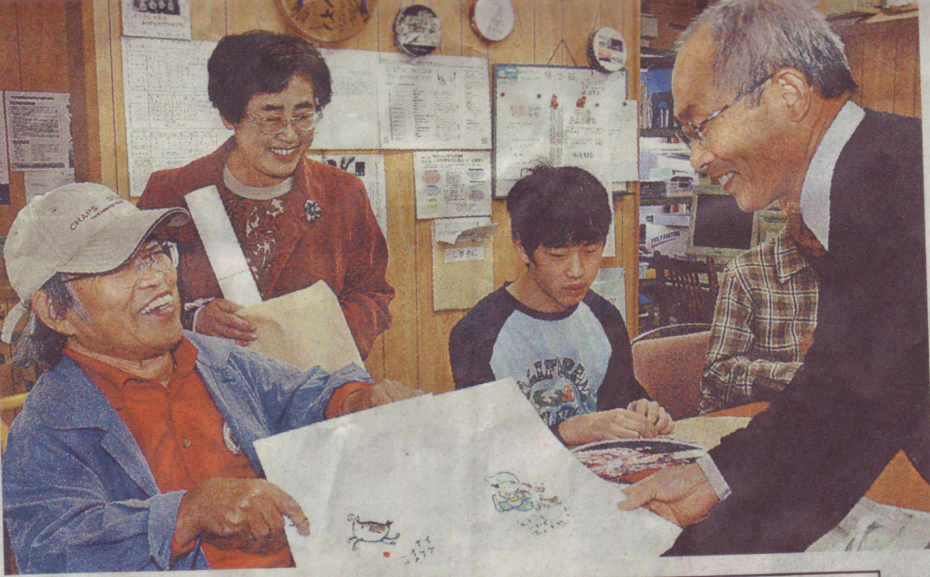


イノシシの絵



はらさん(左端)から紙太鼓用の原画を受け取る沖川施設長

三次の障害者作業所に書き下ろし

「紙太鼓作る」利用者に元気

中国新聞

掲載

詩画家のはらみちをさん(78)は広島市東区が、三次市十日市東の身体障害者作業所「かぜくさ」のために、来年のえこのイノシシの絵を書き下ろした。施設の利用者たちは絵入りの紙太鼓を作り、十二月中旬から、同市君田町の「はらみちを美術館」で販売する。今後、美術館が所蔵する「お母さん」をテーマにした絵なども原画にして紙太鼓を作る予定にしている。(余村泰樹)

子どもたちから手足は、壁に飾った紙太鼓が不自由なはらさんは見て「こんな素晴らしい「みんなの生きがいや社」のができるんだ。いいな会参加につながれば」とあ。利用者に「頑張ると無償で絵を提供した。愛つてじゃね」と声を掛けらしいイノシシと、子どもと交流。原画を沖川吉弘もを背負った母が紙太鼓施設長(66)に手渡した。「元気なはらさんに負を鳴らしながらイノシシ「元気なはらさんに負けないようにしたい。ほと一緒に歩く姿を描いたのぼのした絵の太鼓を早く一枚。それぞれ「イケイのぼのした絵の太鼓を早くイノシシ「一直線」く作りたい」と同市十日市西の佐々木和磨さん「ええこと、いっぱいエト太鼓」とメッセージ(79)。はらさんは「体が不自由なみんなが心を込めて手作りの太鼓の響きが広がって、みんなの心に温かさが伝わってほしい」と期待していた。

はらさん贈る